

# 外国人留学生支援のための芸術用語の基礎調査

— デザイン教員によるプレゼン講評から収集 —

*Basic Survey of Artistic Terms to Support International Students*

— Collected from Presentation Comments by Design Teachers —

加藤 豊二 KATO Toyoji

(留学生別科)

## 1. はじめに

2021年5月現在、本学には世界7か国、71人の外国人留学生<sup>1)</sup>(以下「留学生」という)が在籍している。近年本学へ入学する留学生の人数は増加の一途をたどっており、2017年度14人であった留学生も5倍強に増加した。ここ5年間の留学生数の変化を示したものが図1であるが、2020年度から急増している様子がうかがえる。

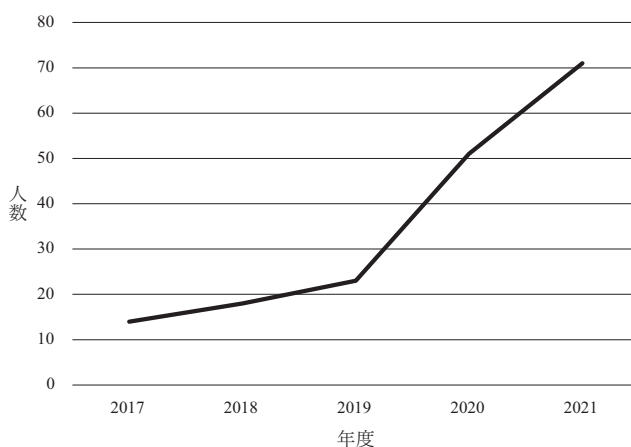


図1 最近5年間の本学における外国人留学生数の推移

しかし、入学後の留学生に対する日本語面でのサポートをする授業科目は、「日本語表現〔留学生〕」1科目があるのみである。このような状況の中、彼らは実際にどのような日本語に接しているのだろうか。少しでも留学生の手助けになればと考え、実際の授業で使用される言葉にはどのようなものがあるのかを調査することにした。

現在、本学で最も多くの留学生が在籍しているのが芸術学部デザイン領域と大学院デザイン研究科であり、71人中60人と84.5%を占める。そこで、学部デザイン領域の1年生が履修する必修科目である「デザイン実技Ⅰ」で、実際にデザイン領域の教員がどのよう

1) 留学生別科15人を除いた学部・大学院・研究生の人数。

な言葉を使って教えているのかを調査した。具体的には「デザイン実技Ⅰ」の授業における、学生による作品のプレゼンテーションに対して、担当教員が、講評でどのような言葉を使用しているのかを調査した。

## 2. デザインファンデーションについて

本学における「デザイン実技Ⅰ」いわゆる「デザインファンデーション」とは「専門教育に分化する前段階として初年度に共通デザイン基礎教育として実施されるもの」（萩原・水内 2016）である。つまり、専門を入学当初から決めてしまうのではなく、様々な分野の基礎的なデザインを学んだあと、自分に適正な専門分野に進むための準備教育である。この教育を施すことにより、学生の視野、技術などが広がる利点があり、現在、国内のデザイン教育を実施している芸術大学の多くで採用されている。

今回研究対象とした「デザイン実技Ⅰ」のシラバスは、表1、表2のとおりとなる。

表1 課題F

課題名：「モーフィング—知覚とイメージーション—」		
担当教員：A先生ほか3人の教員が担当		
課題概要：既存のモノとモノとの「間」の様々な変化を想像し、具現化することを通じて、人間の知覚、モノのもつ性質や意味、動き、時間、変化などについてより深く理解し、柔軟な発想力と表現力を養う。		
課題B：「モーフィング」では、連続的な形や色、質感の変化を頭の中でイメージし、それらの変更過程をシュミレートし描き出す。		
週	授業：作業内容	日程
7	課題Aの説明/材料/色面の選択と混色の選択	11/5
8	色面の選択と混色の選択、及び貼付け。完成させる/課題Aの講評 課題Bの説明/ケント紙にモーフィングイメージ1枚目を鉛筆で書く	11/12
9	2枚目を鉛筆で描く	11/19
10	3枚目を鉛筆で描く	11/26
11	3枚の中から最も良いものを選び、イラストレーションボードに彩色して描く	12/3
12	<b>課題Bの講評</b>	<b>12/10</b>
13	レビュー展会場設営・展示開始	12/17
14	レビュー展展示搬入（分散編入）	1/7
15	レビュー展プレゼンテーション	1/14

1つ目の課題F（表1）は「モーフィング<sup>2)</sup>—知覚とイメージーション—」である。4人の教員が担当し、「既存のモノとモノとの『間』の様々な変化を想像し、具現化することを通じて、人間の知覚、モノのもつ性質や意味、動き、時間、変化などについてより深く理解し、柔軟な発想力と表現力を養うこと」を目的とする授業である。

2つ目の課題H（表2）は「マテリアルスタディーズ—素材と実験—」である。こちら

2)「モーフィング」とは、実写やアニメーションなど画面の合成を行うコンピュータ・グラフィックス技法の1つで、異なる2つの画像間を滑らかに変化していくように処理する技法である。

表2 課題H

課題名：「マテリアル スタディーズ—素材と実験—」 担当教員：B先生ほか3人の教員が担当 課題概要：生活のまわりにある様々な素材を収集、分類、分析し、ものを機能ではなく素材として捉える見方を得る。そして、収集した複数の素材を組み合わせ、2つの作品を制作するが、新しいイメージをつくることを重視する。		
週	授業：作業内容	日程
7	1. 素材収集 2. 集めた全ての素材を分類し素材の特徴を客観視する。/素材収集シート1 *複数の素材で作られたものを次週持参する。	11/6
8	分解・分析/素材収集シート2	11/13
9	実験	11/20
10	作品制作1	11/27
11	作品制作2	12/4
12	プレゼンテーション/講評 ◎提出物：作品	12/11
13	レビュー展展示作業（分散搬入）	12/18
14	レビュー展展示作業（分散搬入）	1/8
15	上級学年レビュー展見学レポート	1/15

の課題も4人の教員が担当し、「まず、生活のまわりにある様々な素材を収集、分類、分析し、ものを機能ではなく素材として捉える見方を得る。そして、収集した複数の素材を組み合わせ、新しいイメージをつくること」を目的とする授業である。

### 3. 研究課題

- (1) 「デザイン実技I」における学生による作品のプレゼンテーションに対して、担当教員2人（A先生、B先生）は、どのような言葉を使用して講評をしているのであろうか。
- (2) 担当教員2人は、どのような場面でどのような言葉を使用して、講評をしているのであろうか。
- (3) 留学生は、「デザイン実技I」の授業をどのように感じているのであろうか。また、教員による講評の言葉を、実際にどの程度理解できているのであろうか。

### 4. 調査方法

本学デザイン領域の2人の教員にご協力いただき、2020年後期の「デザイン実技I」における、学生によるプレゼンテーションに対する、教員の講評を調査対象とした（表3）。

具体的には、2020年12月10日、11日に実施されたプレゼンテーションの講評を、ICレコーダーで録音し、そのあと文字化した。それから、頻出した言葉および気になった言葉を、品詞等を問わず、抽出した。デザインに関して門外漢である筆者が抽出したため、抽

表3 調査をした「デザイン実技Ⅰ」の概要

対象者	芸術学部デザイン領域1年生	
時期（2020年度後期）	2020年12月10日	2020年12月11日
課題名	モーフィング —知覚とイメージーション—	マテリアルスタディーズ —素材と実験—
担当教員	A先生	B先生
学生人数（当日出席者）	19人	23人
録音時間	2時間38分42秒	2時間43分32秒

出した言葉が妥当かどうかは不明であることをお許し願いたい。

当日の受講者数は、A先生のクラスは19人で録音時間2時間38分42秒、B先生のクラスは23人で録音時間2時間43分32秒であった。この時間は、教員による学生全体への説明と学生個別への講評の時間のみならず、学生によるプレゼンテーションの時間を含んだ時間である。なお、事前に2人の担当教員が学生に対して録音の許可を得たのち実施した。ただし、教員の講評のみを分析対象とし、学生のプレゼンテーションは分析対象外とした。

また、2021年4月に学部デザイン領域に入学した、中国人留学生（N2レベル）1人<sup>3)</sup>に対して、「デザイン実技Ⅰ」の授業に対するアンケートと、教員によるプレゼンテーションでの講評の言葉を、実際に理解できるかどうかの調査を2021年10月22日に実施した。

## 5. 結果と考察

### 5-1. 担当教員による講評の言葉

学生のプレゼンテーションに対する教員の言葉として抽出したのは、A先生の言葉186語（表4）、B先生の言葉154語（うち22語が資材を指す言葉）（表5）であった。

1つ目の課題は、2人の担当教員はどのような言葉を使用して講評をしているかであるが、調査の結果、表4、表5のような言葉を使用していることが明らかになった。当初は、両教員の使用した言葉を1つにまとめる予定であったが、課題F、Hともデザインを扱った課題ではあるものの、課題により、教員により、使用している言葉が異なるため、別々に提示することにする。

まず、両教員に共通して多数使用された言葉としては、「おもしろい」「作品」「プレゼン（プレゼンテーション）」がある。「おもしろい」は一番のほめ言葉であり、制作された作品、学生のアイデアなどに対して興味が惹かれるという意味で使用していた。また、この授業は学生による作品のプレゼンテーションに対して講評を行うものなので、「作品」「プレゼンテーション（プレゼン）」が多く出現をするのも頷ける。特に、プレゼンター

3) 2020年4月の入学生に対して、しかも複数人に対して本来は実施すべきである。しかし、デザイン担当教員の使用する言葉を、どの程度留学生が理解しているのかを確認するため、わずか1人の回答ではあるが掲載することにした。

表4 A先生が講評で使用した言葉 (186語)

抽出語	頻度	抽出語	頻度	抽出語	頻度	抽出語	頻度
表現	45	最終的に	4	クリアー	2	実力	1
おもしろい	43	徐々に	4	コメント	2	視点	1
作品	33	成長	4	再提出	2	シャープに	1
課題	31	透明生彩	4	循環	2	心配	1
結構	31	独特	4	シンプルに	2	水彩画	1
変化	29	どんどん	4	水彩	2	スキル	1
プレゼン	24	納得	4	体感	2	すばらしい	1
アイデア	20	納得感	4	対比	2	ずんずん	1
構図	20	粘り気	4	達成	2	性質	1
やっぱり	19	ファインアート	4	楽しい	2	成長曲線	1
大事	18	違和感	3	デザイナー	2	説明的	1
確かに	16	カバー	3	努力	2	戦略	1
すごい	15	感覚的	3	慣れ	2	洗練	1
デザイン	15	技術	3	日常的	2	第一印象	1
挑戦	13	客観視	3	派手さ	2	ダイナミック	1
プレゼンテーション	13	急激に	3	パリッと	2	端的に	1
着彩	12	個人的	3	ファンデーション	2	鍛錬	1
ポイント	12	成功	3	ボリューム感	2	力強さ	1
難しい	12	整合性	3	魅力	2	チャレンジ	1
モチーフ	12	楽しみ	3	魅力的	2	チャンス	1
丁寧に	11	直感的に	3	明確	2	挑戦的	1
意図	10	伝える	3	もやもや	2	デザインの	1
質感	9	伝わる	3	アニメーション	1	独特な	1
慣れる	9	的確	3	意識	1	独特の	1
うまい	8	デッサン	3	意識的	1	日常性	1
技術力	8	得意	3	一見すると	1	発想	1
最終的な	8	なるほど	3	意図的	1	ぱっと見	1
なかなか	8	ねばっとした	3	大げさ	1	ぱりぱり	1
工夫	7	ねばねば	3	オーバーラップ	1	ピタッと	1
表現力	7	バランス	3	甲斐	1	表情	1
レビュー展	7	不思議な	3	絵画的	1	ファーストアイデア	1
意外と	6	プロセス	3	改善	1	不安	1
イメージ	6	領域	3	果敢に	1	不慣れ感	1
評価	6	アート	2	描き込む	1	ブラッシュアップ	1
無理	6	アクリル	2	カチンと	1	ふわっと	1
感覚	5	意外性	2	キーワード	1	ぼつぼつ感	1
技術的に	5	色鉛筆	2	キャラクター的	1	ほぼほぼ	1
基準	5	印象	2	凝縮	1	本物らしい	1
緊張	5	印象的	2	強調	1	本物らしさ	1
組み立て	5	カーデザイン	2	緊張感	1	真面目に	1
経験	5	画材	2	ぐぐっと	1	モーフィング	1
誇張	5	気づき	2	具体的に	1	もやもや感	1
試行錯誤	5	客観的に	2	構成	1	ユーモア	1
テクニク	5	キャラクター	2	ざらざら	1	ユーモラスな	1
惜しい	4	ぎゅっと	2	色彩	1	立体的	1
おもしろさ	4	強弱	2	自己反省	1		
解釈	4	興味	2	姿勢	1		

表5 B先生が講評で使用した言葉 (154語)

抽出語	頻度	抽出語	頻度	抽出語	頻度	抽出語(資材)22語	頻度
形	73	見せ方	4	重さ的	1	針金	18
タイトル	67	レビュー展	4	解体	1	ひも	17
よかった	52	意図	3	絡み	1	糸	9
イメージ	41	感覚的	3	関連	1	輪ゴム	9
素材	35	機能	3	極力	1	ストロー	8
おもしろい	18	工夫	3	ぎりぎり	1	瓶	8
作品	17	固定	3	極める	1	サランラップ	7
なかなか	13	ささやかな	3	くしゃくしゃと	1	布	7
関係	11	直接的	3	くしゃっと	1	ハンガー	6
意味	10	展開	3	具体的に	1	紙	5
説明	10	展示	3	くちゃっと	1	キャップ	4
かかわらせ方	9	ぱっと見	3	経験	1	ペットボトル	4
難しい	9	バランス	3	語彙力	1	割りばし	4
構成	8	ぴんと	3	効果	1	クリップ	3
状態	8	欲を言うと	3	ごちゃごちゃ	1	ガラス	2
性質	8	連想	3	言葉の痛み	1	チェーン	2
全然	8	扱い方	2	こねこね	1	ビニール	2
プレゼン	8	安定	2	最終的	1	アクリル	1
シンプル	7	影響	2	さわやかな	1	ナイフ	1
意図的	6	鏡的	2	指摘	1	ビス	1
角度	6	兼ね合い	2	選択	1	プラスチック	1
組み合わせる	6	組み合わせ	2	そういう意味ではなく	1	綿	1
結構	6	繰り返し	2	それありき	1		
最低限	6	形態	2	大丈夫	1		
写真	6	試行錯誤	2	確かに	1		
正面	6	修正	2	天変地異	1		
操作	6	正直	2	特性	1		
見た目	6	すっきり	2	どんどん	1		
要素	6	総じて	2	似せる	1		
よくなっている	6	単純に	2	似ている	1		
立体的	6	特徴	2	発想	1		
わかりやすい	6	日常的な	2	ぱっと見たとき	1		
扱い	5	複雑	2	省く	1		
印象	5	迷宮入り	2	判断	1		
惜しい	5	メイン	2	不思議な	1		
個人的には	5	相性	1	プチプチ	1		
実際	5	明らかに	1	ふわっとした	1		
そういう意味では	5	アクセサリーの	1	べらべら	1		
想像	5	アップ	1	方向性	1		
作り方	5	意味合い	1	ほほほほ	1		
プレゼンテーション	5	違和感	1	水っぽく	1		
窮屈	4	うまい	1	水的	1		
つけ方	4	選び方	1	唯一	1		
同士	4	想い	1	欲	1		

シヨンの開始前に、教員がプレゼンテーションの意義などを説明する場合に多数出現した。

次に、それぞれの課題に即した言葉が多数使用されていた。A先生のクラスの課題は「モノとモノとの間の様々な変化を想像し、柔軟な発想力、表現力を養うこと」を目的としているので、「表現」「変化」「アイデア」などの言葉が使用された。同様に、B先生のクラスの課題は「様々な素材を収集し、複数の素材を組み合わせて、新しいイメージをつくること」を目的としているので、「形」「イメージ」「素材」「関係」、作品につける名前の「タイトル」などが使用されていた。それから、A先生のクラスと違い、「針金」「ひも」「糸」などの資材を指す言葉が多かった。

また、まさに芸術に関する言葉としては、A先生のクラスでは、「着彩」「モチーフ」「質感」「ファインアート」「モーフィング」などの言葉を使用していた。B先生のクラスでは、特に見当たらなかったが、「鏡的」「アクセサリ的」など「～的」という言葉が使用されていた。イメージでなんとなく理解できそうであるが、筆者は正確には意味が理解できない。

それから、それぞれの出現の頻度は多くないものの、「ねばねば」「パリッと」「くしゃっと」「ふわっと」などの副詞が使われていた。このような言葉は日本語の授業で習うことが少ないので、留学生は苦手ようだ。

## 5-2. 担当教員による講評における場面と言葉

次に、学生による作品のプレゼンテーションにおける講評であるが、教員は、学生が制作した作品を評価し、いい場合は「ほめ」の言葉を、足りないところ、改善するところがあれば、「指摘」、「励まし」の言葉などを使用するが、具体的に、2人の教員はどのような場面で、どのような言葉を用いて講評しているのだろうか。

### A先生の場合

まず、A先生の講評を紹介する。A先生は主に4つの方法で講評をしている。

#### (1) プレゼンテーションをほめる

例1) まあ、あのうプレゼンが明確でわかりやすかったですね。すごく明確で、ちゃんと意図が説明されていて、構図にしろ、モチーフにしろ……（中略）頭の中で組み立てが理解できている。

例2) すごいプロセスを丁寧に進めていて、プレゼンを丁寧にしてくれたので、……よくわかりますね。

作品ではなく、プレゼンテーションそのものが「明確」であり、あるいは「丁寧に」やっているとはめている。

## (2) 制作姿勢をほめる

例3) ○○君はえらいよね。制作の途中から見ていてももやもやが……しながら描いている。それはいいことだと思います。納得いかないと思って、あーかなあ、こーかなあーと思って試行錯誤している。

例4) プレゼンを聞いていると、こういう意図で作ったんだと、……挑戦していて、3枚目はおにぎり、モチーフが意外性のあるもの、最後に持ってきて挑戦的になっているので、おもしろいと思うし……。

制作の途中で、自分の作品に「納得」いかず、「試行錯誤」している姿勢を、また、「挑戦」している姿勢をほめている。

## (3) 作品のよい点をほめる

例5) ○○君は描くことに慣れていないのかなあと思ったけど、意外と表現が強い。強いものを持っているんだね。最後のそこもそうなんだけど、なんかここが魅力だね。

例6) ちょっとユーモアが入っているのがいいなあと、あと楽しいなのというのが伝わり、そのおもしろい感覚が共通のものがあります。

経験が少なく、書くことに慣れていない学生に対して、その中でよい点を探してほめている。「表現が強い」「ユーモア」「楽しい」など。「おもしろい」は作品に対する最高のほめ言葉である。

## (4) 応援や励ましをする

例7) あのを、最後のデッサンが無理だわと思ったけど、いけると思ったところ、ここがいいんですよ。そうなんです。数週間、こっだけ変われるということはすごいことだよ。で、そうすると、1年とかしたら、どこまで行っちゃうの？ こう技術力なんて、たかがこんなもんです。だけど大事なのは、こっからこうアイデアを入れていって表現をする。それが、そこにも挑戦できているところが、僕はすごくデッサン云々もそうなんだけど、すごく大事なこと。

例8) あとは、細かい構図のこととか、描き込みとか、なんか質感のこととか、まあそういう表現みたいな部分はもう少し頑張れると、ここに、自分の意図したことが、ぽっと見えておもしろいなあと思う。思ってもらえるんじゃないかな。そこが1つの、そこはやらないとわからないけど、1つのネックになっているかもしれない。でも、そこは今後頑張ってやっていくといいと思います。

A先生は、講評の途中で、現在、「技術力」「テクニク」が不十分な学生に対して、「大事」「頑張る」という言葉を使用して、学生を応援や励ましをしている。

このように、A先生の講評には、プレゼンテーションをほめる、制作姿勢をほめる、作



品のよい点をほめる、それから応援・励ましをするなど、一言に講評と言っても様々な方法でコメントしているのが垣間見える。将来、どのような授業内容であったかは忘れても、教員から言われた言葉は覚えているものである。また、A先生は講評の随所に、自分の体験談を話し、様々な「大事」なことを学生に伝えている。

一方、B先生はどのように講評をしているのであろうか。

### B先生の場合

B先生の場合は主に2つの方法で講評している。

#### (1) 作品そのものをシンプルにほめる

例9) まあ、前回もトイレットペーパーの芯だとか加わってやってきたよね。よりは、そのハンガーと蛍光灯?で、まあできる、立ち上がっているという形に落ち着いて、まあ、こっちのほうが意図、すごく意図的に見えるというか、形で見せようとしているのがわかるので、よかったと思います。

例10) 前回、前々回の時より、素材の特性とかを利用して形にしようとするのが見えているので、あのよくなっていると思います。

例11) 1つ目のほうの形の作り方とか素材で、なんかほんとに感覚的に言っちゃうとあれだけど、その手元にあるもので、なんか形ができないかなあという試行錯誤の結果が見えて、あのおもしろいと思います。

B先生の講評は至ってシンプルである。「よかった」「よくなっている」「おもしろい」など、それが、全体を指して言っているのか、部分を指しているのかの相違があるだけである。

#### (2) よりよくなるためのアドバイスをする

例12) 今回の課題はイメージありきで素材を組み合わせて作るんじゃないから、なんかあのうまず作ってみてから、どういうイメージが湧くかっていうふうにしてほしかったと思います。

例13) ちょっとタイトルと実際のものとの距離がありすぎて、なかなか細かい受験の時の知識がどうこうということまで見る側としては、想像が及ばないかなあと思って、もっと別のタイトルがあってもよかったかなと思います。

「～してほしかった」「～があってもよかった」という表現を使用して、強制ではない、よりよくなるためのアドバイスをしている。「タイトル」付けを大切に、学生のプレゼンで聞き取れなかった場合には「タイトルは?」と何度も聞いていたのが印象的だった。

お二人の教員の講評は、課題の相違にも要因があるのかもしれないが、それぞれ方法は

違えども、学生のことをよく考えた上で講評をしている。

教員にとっては、多数いる学生の中の1人かもしれないが、大学に入学したばかりの新生入生にとって、自分の作品のプレゼンに対する教員の講評は、貴重であり、大きな励みにもなる大切なものである。異国の地で勉学に励む留学生にとってはなおさらである。

### 5-3. 留学生にとっての「デザイン実技Ⅰ」でのプレゼン講評

2021年4月に入学した1人のデザイン領域1年生に対して実施したアンケートの結果を掲載する。なお、アンケート調査(資料)は参考文献のあとに掲載する。

調査に協力してくれた被験者は、中国出身の日本語能力試験N2の合格者であり、知識も豊富で日本語力も高い学生である。しかし、アンケートの結果、「デザイン実技Ⅰ」の授業は理解できるものの、先生の話す言葉が理解できないこともある。

その話す言葉が理解できない要因として、①話すスピードが速い、②単語がわからない、③内容が難しいの3つが挙げられる。もちろん、日本語母語話者ではないので、日本人教員が自然なスピードで話す授業内容を、完全に理解することは難しいと思われる。そして、理解できないときは、クラスの友達に聞く、辞書・インターネットで調べるなどの解決方法をとっている。

そこで、今回の2人の先生が使用した言葉の一覧表(五十音順)を学生に見せながら、筆者が速いスピードで読む言葉が理解できるか否かを判断してもらった。結果は、表6のとおりで、カタカナ語、副詞が弱いことが判明した。

表6 留学生へのアンケート調査の結果

対象者	中国人留学生(2021年4月入学)デザイン領域1年生 1人
日本語レベル	日本語能力試験 N2 (中国で1年間、国内の日本語学校で2年間勉強)
実施日	2021年10月22日
授業への理解について	・授業は理解できるが、教員の話すスピードが速くて聞き取れないことがある。 ・専門用語のカタカナ語が難しい。 ・理解できないときは、クラスの友達に聞く、辞書・インターネットなどで調べる。
理解できなかった言葉の一覧 (五十音順) 47語	アクセサリ-的、アクリル、糸、オーバーラップ、鏡的、かかわらせ方、カチンと、兼ね合い、キャップ、窮屈、極める、ぐぐっと、くしゃくしゃと、くしゃっと、くちゃっと、組み立て、クリアー、クリップ、ごちゃごちゃ、こねこね、ざらざら、サランラップ、シャープに、それありき、ダイナミック、テクニク、ねばっとした、ねばねば、粘り気、ぱっと見、ぱっと見たとき、パリッと、ぱりぱり、ハンガー、ビス、ピタッと、ビニール、プチプチ、プラスチック、ふわっと、ふわっとした、ペットボトル、ぼつぼつ感、ボリュウム感、モーフィング、輪ゴム、割りばし

結果はおおむね予想どおりであったが、驚いたのがペットボトル、キャップなどの資材を指す言葉が理解できなかったことだ。もちろん実物を見れば理解できると思うが、特に「ペットボトル」という言葉が理解できなかったのは意外であった。知っているのが当然であると思い込んでいたので、結果に少々驚いた。身近にありすぎて、その名前を呼ぶ機会すらなかった可能性もある。

しかし、それ以外の言葉は理解できるということは、内容そのものの理解はできているということであろうか。調査では、一覧表の文字を見せているので理解はできるが、音声だけで、速いスピードで、文章で話されると、理解力は下がるのではないかと思われる。

中国人留学生は、一般的に非漢字圏の学生に比べ漢字が理解できるので有利であるが、デザインの専門用語はカタカナ語が多いことと、副詞については日本語教育ではわずかしか学んでいない可能性があるため、中国人留学生でも苦手のようなのだ。この点をフォローすれば理解力も高まるとと思われる。

## 6. おわりに

本学入学後の外国人留学生に対する日本語でのサポートは十分であるとは言えない。留学生数がここ数年で急増した背景があるので致し方ないが、今後も中国を中心としたアジアからの留学生の増加が見込まれるため、彼らの日本語面でのサポートは急務である。多数の学生に一齐に教える教員にとっては、ほとんどが日本人である教室で、留学生のことを考え講評するのは難しい。しかし、カタカナの専門用語、頻繁に使用される副詞の翻訳があれば、少しは彼らの理解の助けになるであろう。

今回は、学内で最も多くの留学生が占めるデザイン領域の「デザイン実技Ⅰ」の授業におけるプレゼンの講評において、担当教員はどのような言葉を使用して授業を行っているのかを調査したが、課題に即した言葉が多数出現し、また担当教員は様々な方法で講評をしていることが明らかになった。今後は、他の領域においても担当教員は実際にどのような日本語を使用して授業が実施しているのかを調査し、少しでも留学生への役に立ちたいと考えている。

## 謝辞

本研究は2020年度名古屋芸術大学特別研究費の助成を受けた。また、芸術学部デザイン領域の先生方ならびに学生の皆さんの協力を得た。ここに記して、感謝の意を表する。

## 引用文献

萩原周・水内智英「日本における初年度共通デザイン基礎教育の実態調査・検証—デザインファンデーションプログラムの可能性と課題からその将来を展望する—」『日本デザイン学会第63回研究大会概要集』、東京、2016年、pp. 228-229

### 参考文献

- 伊藤春子「経営学部で学ぶ外国人留学生のための基本語彙調査—シラバスを用いた試行調査—」『星城大学研究紀要』18、2018年
- 上山輝「デザイン教育の視点からみる一般学生のプレゼンテーションポスター制作と評価」『美術教育学研究』49、2017年
- 坂本恵・ナジェージダ ウェインベルグ（2017）「ほめの諸相—日本語母語話者は何をほめと認識するのか—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』43、2017年
- 山田眞一「中国語の芸術系科目における教室談話についての一考察—語彙を中心に—」『富山大学芸術文化学部紀要』12、2018年

資料 留学生へのアンケート調査 実施日 2021年10月22日

- 1 領域・コース・学年 \_\_\_\_\_
- 2 性別 男・女 3 名前 \_\_\_\_\_ (可能なら)
- 4 出身国 \_\_\_\_\_ 5 年齢 \_\_\_\_\_ 歳

\*質問は Q 1～Q 6 まであります。あてはまるものに○をつけてください。  
Q 4 以外は複数回答 OK です。

Q 1：日本語の勉強をどこで、どのくらいしましたか。

- A：①自分の国 (①日本語学校 ( 年) ②高校 ( 年)  
③大学 ( 年) ④その他 ( ) ( 年)  
②日本 (①日本語学校 ( 年) ②留学生別科 ( 年)  
③その他 ( ) ( 年)

Q 2：あなたの日本語のレベルはどれくらいですか。

- A：①N1 ②N2 ③その他 ( )

Q 3：大学に入学する前に「芸術」についての勉強をしましたか。

- A：①はい (①高校 ②塾 ③大学 ④その他 ( )  
②いいえ

Q 4：「ファンデーション」等の実技の授業内容は理解できますか。

- A：①よく理解できる ②理解できる ③少し理解できる  
④あまり理解できない

Q 5：理解できない人 (③④の人) は何の理解が難しいですか。

- A：①専門用語が難しい。  
②先生の話す言葉が理解できない。  
a 話すスピードが速い b 単語がわからない c 内容が難しい  
d その他 ( )  
③その他 ( )

Q 6：専門用語せんもんようごの何が難むずかしいですか。

- A：①定義ていぎが難むずかしい　②数かずが多おおすぎる　③カタカナ語ごが多おおい  
④その他（

)

Q 7：専門用語せんもんようご・先生の話ことばしている言葉りかいが理解できないときはどうしますか。

- A：①クラスともだちの友達に聞く　②辞書じしょ・インターネット等とうで調べる　③先生しらに聞く  
④何もしない　⑤その他（

)

Q 8：その他、授業じゅぎょうを理解りかいするうえで困こまったことを自由じゆうに書いてください。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---